

桑子敏雄氏（東京女子大学特任教授）

演題「風景のなかの文学と工学 文系と理系の選び方・学び方」

11月7日、この時期にしては暖かでおだやかなこの日、我が二葉高等学校で教鞭をとられている桑子彰先生のお兄様でもある、東京女子大学特任教授 桑子敏雄先生をお迎えし、「風景のなかの文学と工学 文系と理系の選び方・学び方」と題した講演をお聞きしました。

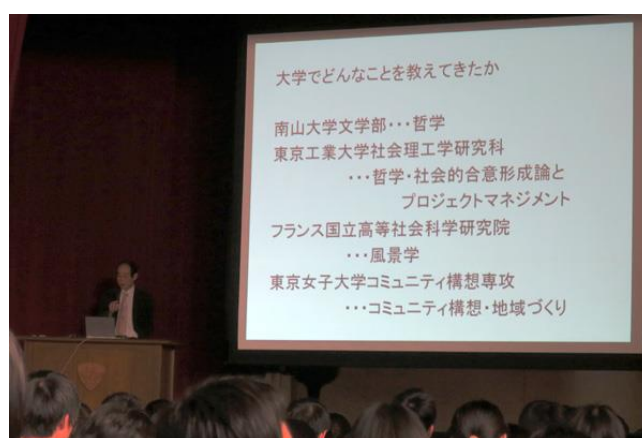
桑子先生は日本でも有数の哲学の第一人者で、『環境の哲学』の出版を機に、日本各地の地域づくり、まちづくりにも携わっておられます。本もたくさん出しておられ、また、前職の東京工業大学では今テレビでもおなじみの池上彰さんの上司でもあった方です。

（詳しい紹介は別紙）

さて、哲学というところかなり、専門的な分野でどんなお話を聴けるのか（理解できるか）、多少とまどいはありましたが、ある書物に、哲学することとは、一つの事に没頭して限りなく探究を続ける事とあり、少々ではありますが、道が開けた感でした。

文系を選ぶにしても理系を選ぶにしても、日常から風景をよく観察すること。風景の中には文系・理系がぎっしりある。風景の中にかくれているさまざまな要素を見抜き、よく観察して見分ける力を身につけてほしい。観察することは推理することでもある。そこから背景を推理して何を学びたいか見

定めたら、目標達成にはどのような知識が必要か考え、自分にはどんな選択ができるか過程を自分でデザインしてみることが重要で大切である。また、選択することは迷



うこと。選択は自由。良い迷い方をし、いろいろなことに目を向けて知的なトレーニングをする。

お話をきけば、なるほど、と思うことばかり。今の生徒の皆さんもよい迷い方をし、納得のいく選択をし、自分の決めたことを探究してほしいと思いました。

最後のほうでプロジェクターの故障により先生のお持ちした画像が見られず残念でしたが、久しぶりに学生に戻った気分で小体育館をあとにしました。

今回は生徒の皆さんの感想をお聞きしましたので、それもあわせてご報告したいと思います。

(副会長)